

十文字槍が語る当別町の物語 ～岩出山伊達家と宝蔵院流槍術の足跡～

当別町と宝蔵院流槍術との特別企画・特集連載第二弾。今回は、当別町に残る岩出山伊達家家臣が残した宝蔵院の武具や特別展示・体験会等イベント企画についてご案内します。

※記事協力：奈良宝蔵院流槍術保存会

岩出山伊達家家臣たちが当別町に残した 宝蔵院流槍術の武具とは？

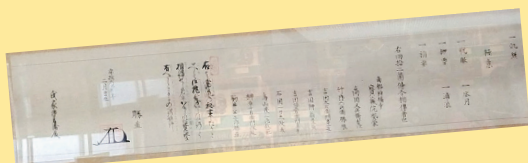
当別伊達記念館には、宝蔵院流槍術に関連する非常に貴重な槍などの武具・目録などの資料が展示されています。是非実物をご覧ください！

当別伊達記念館の貴重な常設展示物

- ・十文字槍（戸田安雄氏提供） 柄の部分も含めて現存
- ・直槍（戸田安雄氏提供） 螺鈿入りの豪華な装飾
- ・稽古槍（戸田安雄氏提供） 稽古用の槍もそのままの形で現存
- ・槍（永根忠男氏提供） 刃渡りの立派な穂先
- ・氏家市兵衛氏受領の宝蔵院流槍術目録 駒井半五郎氏発給の数少ない現物
- ・大内望澄氏の演武写真 槍構えの演武を撮影した明治期の写真は全国的にも稀



十文字槍（鎌槍）



氏家市兵衛氏受領の宝蔵院流槍術目録

令和8年3月、大内望澄氏の宝蔵院流槍術に関する大変貴重な資料（目録、免許、印可、手継書など）が続々と発見されました。段階を経て宝蔵院流槍術の師範となっていく過程を証明する文書類一式は、全国的にも非常に希少です。詳しくは、当別伊達記念館 特別展示『宝蔵院流槍術免許皆伝・武芸の達人～大内望澄』をご覧ください。

当別町在住・宝蔵院流槍術 伝習生の想い

宝蔵院流槍術東京道場 佐藤圭史氏（当別町在住）

きっかけは、大内望澄先生の演武写真を記念館で拝見したことでした。現代の武道家にはほとんど見られない「鋭い眼光」に目を奪われました。と同時に、当時写真が貴重であった時代に、あえて、その姿を残したことは、宝蔵院流槍術の免許皆伝者として、後生の人に何かを伝えたかったのではと思いました。

そして、大内先生が心血注いだ、宝蔵院流槍術を当別町で再興したいとの考えに至りました。この提案に、西本昌永先生を始め宝蔵院流槍術東京道場の方々、さらには、後藤正洋町長を始め当別町にご賛同いただきました。皆様に感謝しきれません。

先人の功績に焦点を当て、当別町のみなさまと武家文化の歴史を改めて知る機会を設けることができたいと思っています。

当別伊達記念館・道の駅とうべつ 特別展示ご案内

当別伊達記念館および道の駅とうべつにて、物語を伝える特別展示を行います！

当別伊達記念館

宝蔵院流槍術と大内望澄氏の人物像に迫る特別展示が開催されています

開催期間：5月1日～10月31日

北欧の風 道の駅とうべつ

伊達記念館特別展示および講演会・体験会・奉納演武のイベントについて特大告知パネルを設置します

開催期間：8月1日～8月31日

是非、当別町に伝わる“武”の物語をのぞいてみてください！